



居久根とくらす

かつて生活の基盤だった屋敷林の存在は、地域の人、産業、自然を循環させる生態系の役割を担っていた。自然環境から家を守り、採取した果樹を食べ、建材やプロダクト、エネルギーへの活用など、余すことなく資源を活用し、また、これを持続的に使い続けられるネットワークが形成されていた。消費が主な現代の生活において、居久根が有する性質の価値は非常に高いといえるのではないか。

ここでは、居久根との暮らしの風景を描き出し、現代の心豊かな住まいを提案する。

01 居久根の意味と役割

居久根とは...
居久根とは屋敷林の呼称である。東北・北関東の太平洋側の地域、特に宮城の屋敷林のことをさす。「居」=家、「久根」=境界であり屋敷境界の意味を持つ。

【自然な境界線】
植物によって遮られる境界は自然な境界面を作り出し、景観を損ねることは無い。また、堀とは異なり、目隠しとして機能するが空気や動植物の動線を遮ることが無い。

【気温・湿度の安定】
【守る】
太平洋側からの北風、雪、火事の移り火などから守る役割を果たす。

夏は日射を遮り、冬は雪から守る広葉樹は葉を落とすことで冬の日射確保に貢献している。

【肥料・材料・食料として】
居久根の持つ豊かな生態系は、人の手が加わり管理されていくことで保たれ、我々はその恩恵として、食料や資材をえることができる。



居久根の形態の変化



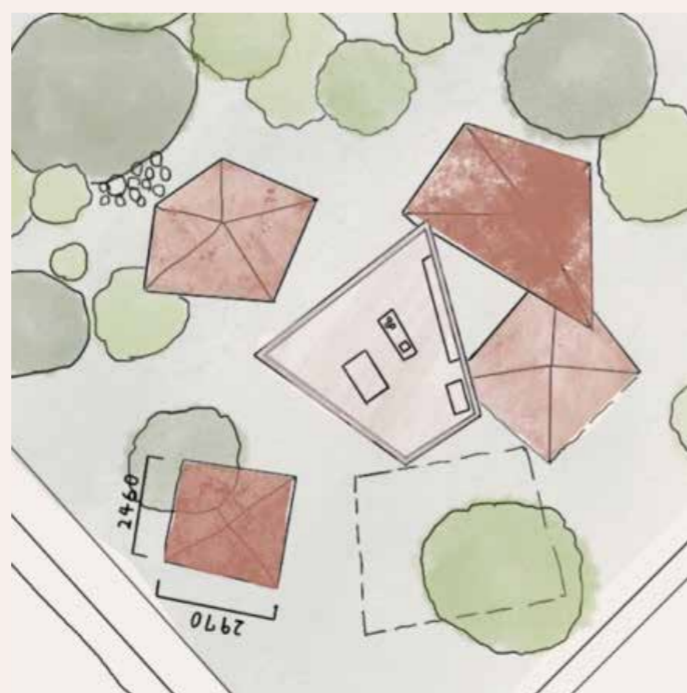
03 居久根と共存する住まいの形

ダイアグラム

対象敷地：宮城県 大崎市 岩出山下一栗



- 活動が活発に行われる食卓
- 風当たりの良い蔵書部屋
- 光量・風量が適切なキッチン
- 光・風を防ぎ涼しい居間
- 外部環境との接地面が多い工房
- 静的に活動が行われるアトリエ



配置図・平面図 1:200

植物の遷移によってできる、空間の階層構造に注目する。林冠、林内、林床、ごとに分けられる空間性の特徴をさらに6つに分割する。生活のシーンごとに適する空間を当てはめていくことで、生活の豊かさが増す。



花見

02 居久根に住まう生き物たち



03 循環プログラム

【生態系の循環】
300種類以上の植物、多種多様な動物の住みかとなっている。土壌は微生物によって分解され栄養となり植物の成長を助ける。



【農業の循環】
豊かな土壌ではおいしい野菜が育ちます。畑の手入れやコンポストの活用、自分の力でのびのびと育てた野菜はおいしく感じる。環境負荷の少ない暮らしを目指す。



【木材の循環】
木材は、成長と共に間引き、建材や木チップ、薪として活用。居久根の木材を手入れをしながら持続的に使うことで、サステナブルな生活を可能にする。



【居久根コミュニケーション】
お隣さんの桜を見る、居久根で収穫した食べ物をおすそ分けする、かくれんぼ、昔から大事にされてきた祠の存在は、居久根と人をつ結びつける。



カブトムシを観察



秋の素材を拾う



干し柿を干す